

令和 2 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 3	学校名	銚田第一高等学校附属中学校						課程				学校長名	飯山 美都子				
教頭名	寺内 久永											事務（室）長名	和田 靖					
教職員数	教諭	7	養護教諭	0	常勤講師	0	非常勤講師	0	実習教諭, 実習講師, 実習助手		0	事務職員	4	技術職員等	4	計	15	
生徒数	1 年				2 年				3 年				合計				合 計 クラス数	
	男		女		男		女		男		女		男		女			
	2 0		2 0		0		0		0		0		2 0		2 0			1

2 目指す生徒像

- 思いやりの心や感動する心, 挑戦する心を持ち, 協働して物事に取り組める生徒
- 確かな学力と広い視野を持ち, 主体的に課題解決できる生徒
- 高い志をもって仲間たちと切磋琢磨し, 充実した学校生活を送れる生徒
- 地域を活性化し, 地域社会に貢献できる生徒

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
進路指導	○ 併設型中高一貫教育の特色を生かし, 併設型中学校から高校に進む内進生と公立中学校から高校へ入学する高入生が互いに切磋琢磨することにより, 個性や能力の一層の伸長を図る。 ○ 大学への進学を軸とした目標に向け, 生徒それぞれが意識していけるように6年間を活用した段階的な進路学習を施していくことが肝要である。	・内進生と高入生の混合については, 今後の附属中学生の学習状況, 友人関係等を鑑みて, 適切に進めていく必要がある。 ・企業や研究所等の見学や体験を行い, 自分の将来を見通した進路について考えるようにしていきたい。
学習指導	○ 一つ一つの知識をつなげ, 確かな学力を育成できるようにするため, 次のような取組を行う。 ・教育課程の特例を生かした先取り学習と授業時数増を実施〈先取り学習〉中学校段階において, 高校の数学・英語の内容の一部を実施する。	・教育課程の特例を活用し, 高校の内容の一部を実施する際, 高度な授業になりすぎることなく, 全員が学習内容を身につけることができるようにすることが不可欠である。 ・少人数による授業については, 国語・数学・英語の

別紙様式 1 (中)

	〈授業時数増〉週当たり 31 時間（標準授業時数 29 時間） 数学・理科・英語で実施する。(1 単位 50 分) 国語・数学・英語で少人数学級による授業を展開 1 学級を 2 つに分け、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	教科の特性をいかし、ティームティーチングや等質の少人数、習熟度別の少人数など生徒の学習状況に応じた授業を展開していく必要がある。 学習の遅れを防ぐことが必須であり、そのための支援は最も重要である。
特別活動	○ 異年齢交流の取組 文化祭や生徒総会などの学校行事、総合的な学習の時間等において実施 ○ 生徒会活動など、生徒主体の特別活動が活性化している。 ○ 運動部 3，文化部 11 の中から選択し、40 人の生徒が小規模ながら部活動を行っていく。 ○ キャリアパスポートの目的を達成するために、Classi のポートフォリオ機能の効果的活用を進めている。	・学校行事への主体的参加や学級活動・生徒会・委員会への自主的な取り組みにより、グローバル社会に適應できるコミュニケーション能力や社会性の育成が必要である。 ・限られた部活動でも、生徒の満足を得られる活動が必要である。 ・端末の操作に関しては、生徒の経験に差があるので、手際よく使えるようにしていくことが大切である。
生徒指導	○ 豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成 ・ 複数担任制を導入することにより、生徒一人一人について細かな対応ができるようにしている。併せて、副担任が教室を随時訪れ、生徒との好ましいコミュニケーションを図る。 ・ 生徒自身が自己の存在感を実感できるよう定期的な面談を取り入れるなど、多感な発達段階をサポートする。	・好ましい人間関係、友人関係を構築していくことが、最も重要な課題である。言動や行動を注視し、内面的な手立てが必要な生徒に、各部署と連携して援助していく必要がある。 ・全職員で共通理解のもと統一した指導の徹底を図る必要がある。
開かれた学校	・ ホームページやフェイスブックで常時最新の情報発信を行っている。外部評価（学校関係者評価等）が十分に活用されていない。	・学校評議員制度の活用やホームページやアンケートなどの広報広聴活動を工夫し、家庭・地域社会との連携を目指した、より効果的な活動が必要である。
働き方改革	○ スムーズな学校生活を送れるように生活環境や学習環境について、生徒の実態に即して対応している。本校オリジナルの計画や準備を行うには、多くの時間を要するところである。	・適材適所で業務を分担することにより、効率的に運営を進める必要がある。 ・業務の精選により、過多となっている部分を縮減する。

別紙様式 1 (中)

4 中期的目標

- 確かな学力を身につけさせるとともに、学習指導や進路指導の改善やカリキュラムの検証を図り、生徒の多様な希望に応える指導体制を充実させる。
- 中高一貫教育で学ぶ意義や高校や大学に進学することの目的などを生徒自身が考え、自己の将来の在り方や生き方に繋げていけるように、進路意識を高めるための取り組みを一層推進する。
- 学校行事や部活動・特別活動を活性化し、それらを通じて自主性や豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成していく。
- 広報活動の充実や学校評議員制度の活用など家庭・地域社会との連携を図り、保護者・地域社会の期待に応える学校づくりを進める。
- 働き方改革により、当初の新設中学校の運営のために費やしていた多くの時間や労力が減り、スムーズな学校運営が実行されている。職員は、中学生の教育にやりがいをもって取り組んでいる。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力・授業の質の向上	・「課題テスト」の年間 30 回実施を通して、基礎学力を定着させる。 ・基礎基本を定着させるとともに、発展的学習や学校設定科目の内容を充実させる。 ・自ら課題を発見し、課題解決学習に取り組む素地を養う。 ・授業力向上のため、教員間の授業観察と校内授業研修を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・指導力向上のため、職員が外部講習等に積極的に参加する。
個に対応した指導の充実	・習熟度別授業の指導方法、指導内容を充実させる。 ・少人数授業の効果を高めるために担当者間の連携や、授業方法の創意工夫を積極的に行う。 ・特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を実施する。
進路意識・進路実績の向上	・中高一貫教育を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や進路目標達成につなげる。 ・各学年の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・進路に関する講演などで収集した正確な情報を進路指導に活用する。

別紙様式 1 (中)

	・ 難関国公立・私立大学の合格者数増に繋がる学習を継続させる。
特別活動・部活動の一層の活性化	・ 学校行事への積極的な参加を促し,学級活動・生徒会・委員会の活動により主体的に取り組み,社会に貢献できる人材,グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・ 部ごとに活動目標を明確にし,県大会以上の大会に出場できる部を増やす。 ・ キャリアパスポートを効果的に活用するために, 生徒自身の足跡をきちんと残せるように指導する。
マナーや規範意識の向上	・ 全職員が共通理解を持って指導にあたり,生徒が率先してルールやマナーを順守しようとする態度を育てる。 ・ 全体的な取り組みと合わせて,生徒一人一人の特性に応じた指導を図る。
学校評価の推進	・ 自己評価,外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・ 学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・ ホームページやアンケート等の広報広聴活動を充実させ,学校を活性化させる。
働き方改革	・ 中学校教員の役割を適切に配し, 効率的な計画・準備を実施する。 ・ ペーパーレスで打合せを行い, 用紙と印刷・綴じ込みの時間の節約を行う。 ・ 業務を進める際には, 必ず終了時刻を明確にしておき, 効率よく仕事を行う。